

KVK デッキ型定量止水付2ハンドル混合栓 KM296(Z)〈各仕様共通〉 施工説明書

施工業者様へ 施工前にこの施工説明書を必ずお読みのうえ、正しく施工してください。
この施工説明書と取扱説明書は必ずご使用になるお客様にお渡しください。

■この施工説明書はKM296仕様のイラストで説明しています。

安全上のご注意

- ここに示した **警告** は誤った取扱いをすると、死亡または重傷に結び付く可能性があります。
- ここに示した **注意** は誤った取扱いをすると、傷害または物的損害に結び付く可能性があります。
- いずれも、安全に関する重要な内容を記載していますので、必ず守ってください。
- お守りいただく事項の種類を次の絵表示で区分し、説明しています。

この絵表示は、してはけない「禁止」の内容です この絵表示は、必ず実行していただく「強制」の内容です

警告	<p>湯水を逆に配管しないでください。</p> <p>禁止</p> <p>水を出そうとしても、湯が出てやけどをすることがあります。必ず給水管が右側、給湯管が左側に配管されていることを確かめてください。</p>	<p>給湯温度は85°Cより高温で使用しないでください。</p> <p>禁止</p> <p>85°Cより高温でご使用になると、水栓の寿命が短くなり、破損して、やけどをしたり、漏水で家財などを濡らす財産損害発生のおそれがあります。</p>	<p>加工及び接合等の改造はしないでください。</p> <p>禁止</p> <p>器具が破損し、やけど・けがをしたり、漏水で家財などを濡らす財産損害発生のおそれがあります。</p>
	<p>給湯に蒸気を使用しないでください。</p> <p>禁止</p> <p>器具が破損して、やけど、漏水のおそれがあります。</p>	<p>寒冷地仕様の場合 水抜き栓は水抜き以外の目的で開けないでください。</p> <p>禁止</p> <p>水抜き栓をいきなり開けると高温の湯が出てやけどをしたり、湯水が噴き出して、家財などを濡らす財産損害発生のおそれがあります。</p>	<p>配管などの解氷のため、解氷機をご使用の場合、水栓には絶対に通電しないでください。</p> <p>禁止</p> <p>通電すると水栓が発熱し、破損して家財などを濡らす財産損害発生のおそれがあります。</p>
	<p>ストレーナの清掃はハンドルで必ず湯水を止めてから行ってください。また、操作の際は湯側ストレーナが熱くないことを確認してください。</p> <p>高温の湯が出てやけどをしたり、湯水が噴き出して、家財などを濡らす財産損害発生のおそれがあります。</p>	<p>スチームルーム及び乾燥室にご使用の際は相談ください。</p> <p>器具が破損して、やけど、漏水のおそれがあります。</p>	<p>給湯圧力は給湯圧力より高くするか、同圧になるようにしてください。また、湯側を加圧する場合も湯側圧力を水側より低くしてください。</p> <p>給湯圧力を給湯圧力より高くすると、正常な温度調節ができなくなり、やけどをすることがあります。</p>

警告

他所の水栓の使用等により水圧変動が起こり、湯の使用中に湯温が急上昇することがあります。

やけどのおそれがありますので、やけどのおそれのないところまで水圧変動をおさえた配管設備にしてください。

注意

器具に強い力や衝撃を与えないでください。

禁止

器具が破損し、漏水で家財などを濡らす財産損害発生のおそれがあります。

凍結が予想される際は、一般仕様をお使いの場合、水栓本体や配管に布を巻くなどして、凍結を防止してください。寒冷地仕様をお使いの場合は配管の水抜き操作と水栓金具の水抜き操作を行ってください。

禁止

水抜きしないと凍結破損で漏水し、家財などを濡らす財産損害発生のおそれがあります。

めっき部品は、ぶついたり落としたりしないでください。また、鋭利な物や硬い物を当てないでください。

禁止

めっきの表面が割れて、けがをすることがあります。

めっきの表面が割れた場合は使用しないでください。

けがをすることがありますので、ただちに使用を停止し、新しい部品に交換してください。

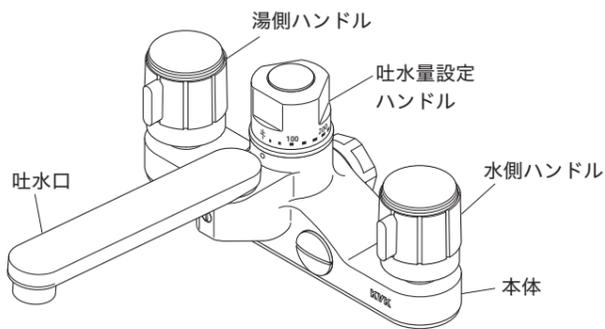
取り付け前に

- ① 使用水圧 (A= (給湯器の最低作動水圧) + (配管圧力損失))
 - (1) 瞬間給湯器との組み合わせ (設定条件 水温: 25°C 給湯器温度調節: 高温 吐水温度: 42°C ハンドル全開) (比例制御式) 最低必要水圧: A+50.0KPa (動水圧)、最高水圧: 0.75MPa (静水圧)
 - (2) 貯湯式給湯器との組み合わせ (給湯・給水圧力) 最低必要水圧: A+50.0KPa (動水圧)、最高水圧: 0.75MPa (静水圧)
- ② 給水圧力は給湯圧力より高くするか、同圧になるようにしてください。
- ③ 給水圧力が0.3MPaから、0.75MPaまでは止水弁で流量調節してください。
- ④ 給水圧力が0.75MPaを超えるときは、市販の減圧弁で、0.2MPa程度に減圧してください。
- ⑤ 給湯器の給湯温度は、安全のため60°C給湯をおすすめします。
- ⑥ 給湯器からの配管は最短距離で配管し、配管には保温材を巻いてください。
- ⑦ 使用諸条件を加味して適正な能力の給湯器を選ばないと、適正な吐水量及び吐水温度が得られないことがあります。
- ⑧ 本製品は改造(加工及び接合等)によるトラブルについては、保証の限りではありません。
- ⑨ 通水検査をしていますので器具内に水が残っている場合がありますが、製品には問題ありません。

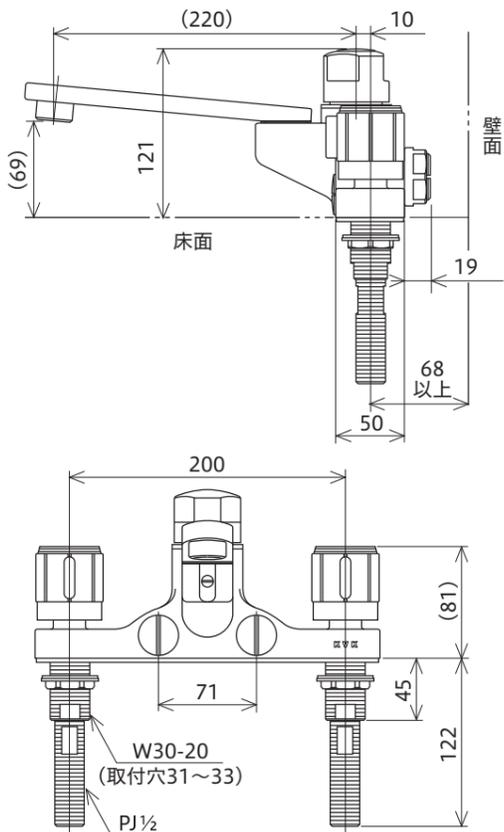
取り付け完成図と各部の名称 / 寸法図 / 分解図

この分解図は製品説明図であり、サービス部品の単位を示すものではありません。

取り付け完成図と各部の名称

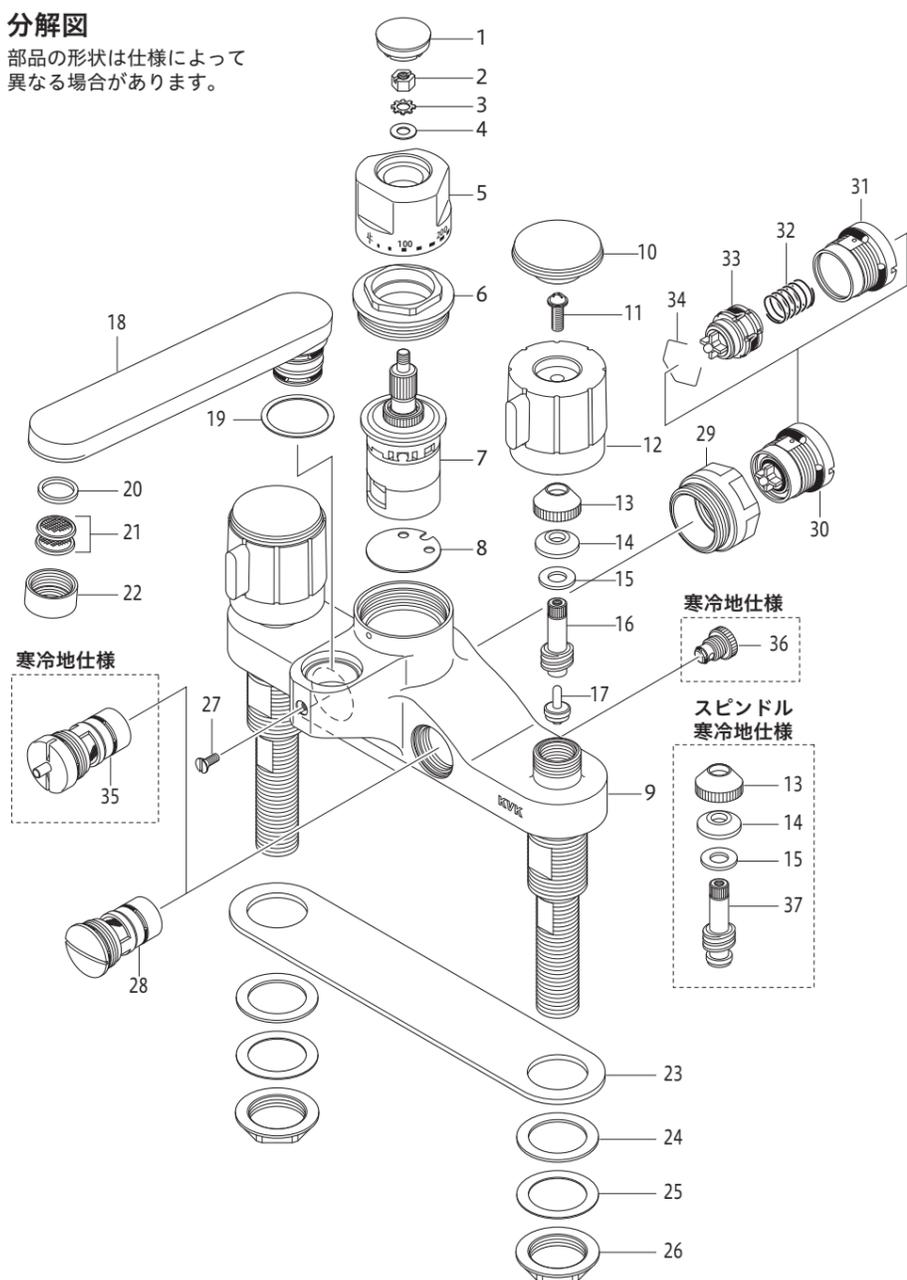


寸法図



分解図

部品の形状は仕様によって異なる場合があります。



1	キャップ
2	ナット
3	歯付座金
4	座金
5	吐水量設定ハンドル
6	固定ナット
7	定量カートリッジ
8	パッキン
9	本体
10	キャップ
11	ねじ
12	ハンドル
13	袋ナット
14	三角パッキン
15	座金
16	スピンドル
17	こま
18	吐水口
19	スリップ板
20	パッキン
21	ストレーナ
22	整流器キャップ
23	シートパッキン
24	パッキン
25	スリップ板
26	フランジ
27	皿小ねじ
28	ストレーナ付き逆止弁
29	止水弁ジョイント
30	定量止水弁
31	キャップ
32	スプリング
33	止水弁
34	リング
35	ストレーナ付逆止弁(寒冷地仕様)
36	水抜き栓
37	スピンドル(寒冷地仕様)

取り付け手順

1 給水管内の清掃
配管工事後、必ず給湯・給水管内のゴミなどを取り除いてください。

2 本体の取り付け
下図の順に本体を固定します。
【お願い】保守点検のため本体取り付け穴から壁面まで68mm以上を確保してください。
【△注意】締め付けは、六角の二面幅に合わせてモンキーレンチ等で確実に行ってください。しっかり締め付けられていないと、漏水するおそれがあります。

本体
シートパッキン
取り付け穴 (φ31~33)
200
68以上
カウンター厚み 35mm以内
輪パッキン
スリップ板
フランジ

3 本体と配管の接続
本体と配管を接続します。

4 ステッカーの貼り付け
使用方法ステッカーを見やすい位置に貼り付けてください。

5 ページ

取り付け後の点検と清掃1

通水確認
【△注意】水栓を取り付け後、通水して湯水の出し止めを5~6回繰り返して、配管接続部及び水栓から水漏れがないことを確認してください。確認しないと、漏水で家財などを濡らす財産損害発生のおそれがあります。

ストレーナ清掃のお願い

本体のストレーナ清掃
本体のストレーナにゴミ等が詰りますと、吐水量が減ったり、希望する湯温にならない場合があったり、きれいに流れなくなったりしますので、施工後必ず清掃してください。
【△警告】ストレーナの清掃は、ハンドルで必ず湯水を止めてから行ってください。ストレーナをいきなり開けると高温の湯が出てやけどをしたり、湯水が噴き出して、家財などを濡らす財産損害発生のおそれがあります。湯側ストレーナの中には熱湯が溜まっている場合がありますので、操作の際はやけどをしないように注意してください。

- 湯水のハンドルをしっかり締めて、湯水が出ないことを必ず確認してください。
- ストレーナ付き逆止弁[2個]を取りはずします。
- ゴミ・水アカ等を洗い流します。

清掃後は上記の逆の手順で組み込んでください。ストレーナ付き逆止弁を締め込む時、吐水量設定ハンドルを吐水状態にしてください。

湯側ハンドル
水側ハンドル
① しめる
湯側ストレーナ付逆止弁
② はずす
水側ストレーナ付逆止弁
③ 清掃
ストレーナ付逆止弁
【寒冷地仕様】ストレーナ付逆止弁

吐水口のストレーナ清掃
吐水口のストレーナが詰りますと、吐水量が減ったり、きれいに流れなくなったりしますので、施工後必ず清掃してください。

- 湯水全開で20~30秒吐水させます。
- 吐水口の整流器キャップをはずす方向にひねって、ストレーナを取りはずします。
- ストレーナをブラシで水洗いします。

吐水口
パッキン
ストレーナ2個
整流器キャップ
歯ブラシなど
ストレーナ
清掃後は、はずした逆の手順で組み立ててください。

6 ページ

取り付け後の点検と清掃2

定量止水弁の清掃方法
定量止水弁が詰りますと、きちんと定量できなくなったり、湯水が止まらなくなりますので清掃してください。

【△警告】定量止水弁の清掃は、ハンドルで必ず湯水を止めてから行ってください。定量止水弁をいきなりはずすと、高温の湯が出てやけどをしたり、湯水が噴き出して家財などを濡らす財産損害発生のおそれがあります。

- 湯水のハンドルをしっかり締めて、湯水が出ないことを必ず確認してください。
- 吐水量設定ハンドルを吐水状態にします。(この時、吐水していないことを確認してください。)
- 本体後ろの止水弁ジョイントを取りはずします。(同梱の専用工具を使用してください。)
- 止水弁ジョイントからキャップを取り出し、リングをはずして分解します。
- キャップの小穴を細い針金等で清掃し、定量止水弁は水洗いします。

清掃後は逆の手順で組み込んでください。

【△注意】止水弁ジョイントは、吐水量設定ハンドルを止水状態にしてから締め込み、吐水状態にしたのち、再度確実に締め込んでください。しっかり締め込んでいないと漏水のおそれがあります。

専用工具
湯側ハンドル
吐水量設定ハンドル
止水弁ユニット
水側ハンドル
① しめる
② 吐水状態
③ はずす
④ 分解
止水弁ジョイント
キャップ
スプリング
リング
定量止水弁
⑤ 清掃
小穴
針金
キャップ
清掃後
リング
押し込みながらリング溝に入れる
リング溝

7 ページ

流量の調節方法(止水栓は本製品に同梱されていません。別売です)
流量の調節は右記の方法で行ってください。

湯側止水弁
止水栓(別売)
水側止水弁
あける
しめる
あける
しめる

図は一般地仕様です

故障かなと思ったら…
次のような現象は故障ではありません。修理を依頼される前に下記の表に従ってもう一度確かめください。

現象	お調べいただくところ	処置	参照ページ及び項目
湯水が止まらない	吐水量設定ハンドルは止水位置に合っていますか	吐水量設定ハンドルを止水位置に合わせる	取扱説明書3ページ「吐水量設定ハンドルの使用方法」
定量止水ができない	定量止水弁にゴミ等が詰まっていませんか	定量止水弁を清掃する	7ページ「定量止水弁の清掃方法」
吐水量が少ない	止水弁は十分に開いていますか	止水弁を開ける	8ページ「流量の調節方法」
	ストレーナにゴミ等が詰まっていませんか	ストレーナを清掃する	6ページ「ストレーナ清掃のお願い」
	定量止水弁にゴミ等が詰まっていませんか	定量止水弁を清掃する	7ページ「定量止水弁の清掃方法」
	ガス給湯器と組合せてご使用の場合、能力切替式のものでは適正能力にセットされていますか ストレーナは凍っていませんか	ガス給湯器の能力を適正能力にセットする ストレーナにぬるま湯をかける	— —
高温しか出ない	水側止水弁は十分に開いていますか	止水弁を開ける	8ページ「流量の調節方法」
低温しか出ない	湯側止水弁は十分に開いていますか 給湯器から十分な湯がきていますか	止水弁を開ける 給湯器の設定温度・作動を確認する	8ページ「流量の調節方法」 —
温度調節がうまくできない	湯側・水側止水弁は十分に開いていますか	止水弁で流量を調節する	8ページ「流量の調節方法」
	給湯器から十分な湯がきていますか ストレーナにゴミ等が詰まっていませんか	給湯器の設定温度・作動を確認する ストレーナを清掃する	— 6ページ「ストレーナ清掃のお願い」
吐水が飛び散る	ストレーナにゴミ等が詰まっていませんか	ストレーナを清掃する	6ページ「ストレーナ清掃のお願い」

【水栓本体内部のメンテナンスをする場合】
【△注意】修理技術者以外の方は水栓本体内部を分解しないでください。故障や水漏れの原因になります。水栓本体内部のメンテナンスは、取付店・販売店またはKVK修理受付センターにご依頼ください。

8 ページ

400336-04